

スケッチかんさい



兵庫県宝塚市栄町1丁目

タカラジェンヌと手塚治虫 の宝塚文化スクエア

秋空の鯨雲に誘われて、阪急宝塚駅から川沿いの花の道に入ると、ベンチで読書する中年紳士や観劇デートのカップルなどでまさに舞台公園。バツと開けた空間の前方に小林一三氏の胸像が微笑んでいた。右手の宝塚大劇場は開演前の観客を吸い込んでいた。はしゃぐ女性客に混じって、私も客となる。隣席の女性客は歌劇ファンで宙組公演は久しぶりだという。男役の歌い上げに、ファンの拍手が続く。最後には私もその声に魅せられていた。楽屋裏口に詰めるファンを横目に帰路につくと、前方に手塚治虫記念館があった。まさに、ここは宝塚文化スクエアだ。阪急電鉄や百貨店、宝塚歌劇団、ホテルなどの事業を興した小林一三氏の大正モダンがしっかりと引き継がれている。

あつた ちかよし
熱田 親憲